Herder の "Iduna" について (一)

前田利道

目次

(1) 序　言
(2) "Iduna, あるいは若返りのりんご"
(3) "Iduna" と Schiller
(4) "Iduna" と Goethe
(5) 結　語

(1) 序　言

Herder の "Iduna" については "人文研究" 第7集に，同じひとの "Paramythien" を紹介した際に言及するところがあつた．またそれと Goethe との関係については "ドイツ文学" 1951年号所載 "ゲーテの永生観をめぐる覚書" においてふれたのである．

一般に Herder の諸見解が若い Goethe にいちじるしい影響を与えたことはよく知られたところであるが，その交情が冷却したとつたえられる Herder 晩年の作 "Iduna" の所論の内容に，Goethe の作品や見解とはなはだしく似かよつた点を見出しうることは，とくに Schiller の "Iduna" にたいする関係を見るときに興味あるものとなる．この "Iduna" 1作によつて Schiller ははつきりと Herder とたもとを分つてしまつたのだからである．

じゆうらい，いわゆる進歩的評論家の間でも Goethe と Schiller との世界観や創作方法の対立を基礎とし，それを前提として論を進めてきたのであり，そしてまた，Schiller=Goethe の完成されたドイツ古典主義は，世界観の見地からすると，むしろ啓蒙主義からの1歩後退であるとみなされてきたのである．しかるに，G. Lukacs をはじめとする1群の，最新の発言においては，

Goethe と Schiller との前述の対立はややぼかされ，かれらの古典主義にじゆうらいよりもいつそう大きな評価を与えるようになつた．最近における Schiller 復活のうごきがその中心になつている．いまそれらの観点の正否をいう僭越は避けねばならぬが，これにたいして重要な試金石たるものは，啓蒙主義を批判的に摂取しつつねばりづよい幅の広い発展を（あらゆる諸傾向をはらみながら）示してきた Herder であると主張することはできよう．

試金石たる Herder のもつているあらゆるすぐれたもののうちで "Iduna" は比較的価値が少いものであるかもしれない．しかし Schiller がこれにたいしてもつともはげしい反応を示したという事実は，やはりとり上げて論ぜられる価値をもつことを示しているのである．

"Iduna" の論ずるところは，Klopstock がドイツの詩文学に北方神話誌をもちいることを要求したのを思い出させるが（G. Lukacs はそれを反動的であると刻印している），それは似て非なるものといえる．Herder にあつては，どの神話誌も，——ギリシャ民族のもの，ケルト民族，ゲルマン民族，はたまたインド民族のものであつても——ひとしく詩的価値をもつているのである．かれにとつては，芸術は人間の行為——1定の文化，1定の時間のもとにある人間の行為なのである．これは Goethe や Schiller が時間を超越した美の概念を云々する傾向のあつたことと対比される．Herder はギリシャ文明にたいする深い知識をもつていたが，ギリシャ人が最高の美の段階に達したのだと認めることはできなかつた；ギリシャ人の業績の分析も歴史的意味をもつにすぎないというのである．ギリシャ文化は客観的に観察するに魅力のある素材ではあるが，それといつても，インド，ヘブライ，シナなどの各文化よりもすぐれた "美" を提供するものであるというわけではない．一方，古典的な Goethe や Schiller にとつては，ギリシャの美は創造的経験のほとんど唯一の源泉なのであつた．そしてとくに Schiller が "Iduna" にたいして反撥したのは，この点からむしろ当然であつた．かれの "ギリシャの神々" は Herder のイドゥナとはとうてい和解できるものではなかつたのである．Herder は北方神話誌をうけいれよとかれらに要求したのではなく，たんにそれもギリシャのものとひとしくうけい

れうるものだと指摘したにすぎなかったのだが，Schiller にはそういう相対主義すら反撥をひきおこしたのである．かれにはギリシャの美は絶対であった．

一般に文学史家は，この2つの態度は，創造するものと観るもの，芸術家と観察者の違いから生じてくるものと考えている[1]のだが，われわれは1歩をすすめて，そこにこの両者の世界観の相違にもとずく大きな問題がよこたわっていることを指摘し，また，Schiller の全面的な反撥と Goethe のそれとまた異った態度とにも，その根拠づけを見出し，さらに，ドイツ古典主義の歴史的意義をみるうえにも1つの傍証を提供することを試みたいのである．

日本における Herder 紹介は Goethe, Schiller のそれに比べて貧困をきわめているところから，ここにはまず "Iduna" そのものの紹介から始めてゆくのが実情に適しているであろう．(テキストには Meyers Klassiker=Ausgaben の Prof. Dr. Theodor Mathias 篇のものを用い，Carl Hanser 版の二巻選集を参照した．)

(2) "Iduna, あるいは若返りのりんご."

数年前 Parnass 山 (文壇をさす) の麓で1つの叫び声が響きわたった．そのいうところ，Parnass 山の上では，2,3のドイツ作家たち[2]が，わが国民と言語とにたいして，ギリシャ神話誌の使用を廃止し，その代りにアイスランドの神話誌を伝来しようと思っている，というのであった．Apollo の代りには将来 Braga が，Jupiter の代りには Thor あるいは Odin が，Olymp の代りには Walhalla が行わるべきだ，等々．

さて，いかなる詩人もその詩歌で国民に法令を，少くとも禁止的な廃止令を指示するものではないし，またここに訴えられている詩人の1人は，いとも甘美な調べや，われわれの言葉でかいた文学の富を，もっとも聡明な批評や，多

(1) cf. Eugen Kühnemann; Herder, p. 574.
Robert T. Clark, Jr,; Herder, his life and thought, pp. 374, 379.

(2) ハインリヒ・ヴィルヘルム・フォン・ゲルステンベルク (1737—1823) の "あるスカルデ (古代北方語，詩人の称) の詩" に刺激されて，クロップシュトックは1767年12月グライムに宛て，かれはその頌歌において随所にギリシャの神話誌を "ケルトの，あるいはわれわれの祖先の神話誌に" 代えた，と書いた．

くの開化した国民の文学の富と融合[3]させている人だが，かれの Skalde[4] を鼓舞して，かのあらゆる古代の神神の斃れたさま，この北方の観念界のすべてが魔像のように，1場の夢のように消えてしまったということを歌い語らせるためにこそ努めたのだから，上述の噂はそれ自体として取るに足らないものではあつたが，驚くべき北極光としてデンマークから出現したこの詩風の現象全体は，やはり少くとも知識や研究の誘因とはなり得たであろう；当時はおそらく誘因とならなかつたのだが．それは整理をする努力に価しないものだつたろうか．この神話誌はどんなものか，どこから生じているのか，どの程度までわれわれに関係があるのか，どこでわれわれに役立ちうるか，等々．これらの問題はじつに全諸国民の案件，人類の発明，言語，思想という財宝に関係がある．これに関して1つの対話がわれわれの手に入つた．それはこの対象を論じつくしてはいないにしても，各方面から考察している．それは断定を下そうというものではないが，思想を誘い出し，決定を促そうとするものである．

第 1 の 談 話

Alfred.　きみもそう思わないかね，Frey，1の国民が1の神話誌をもたねばならぬとすれば，その国民独自の考え方と言語とのうちに生じた神話誌をもつということがかんじんだつたのだ，と．そういうばあい，小供時代からこれらの詩の観念界は，われわれにとつていつそう近しく親しいものになる．この詩の各々の基本になる語をもつて，われわれは直ちにその最初の概念を覚り，それの分枝したもの，転成したもののうちに，容易に合理的にそれを追及するのだ．言葉の衣裳に含まれたもの一切がわれわれにはいつそう信じうべきもの，自然なものに思われる．1つの言語に独創的に刻印されている詩的意味は，言語と共に発生し言語と共にひとしく永遠にみえる．

---

(3)　批評というのにはゲルステンベルクの“文学の諸特徴に関する書翰”(1766, 1767, 1770の各年に発表）が当る．またゲルステンベルクは，かれの飜訳“花嫁．ボーモンとフレッチャーの悲劇”(1765）にたいして“英国中古演劇の4大詩人に関する批判的，伝記的諸論文”および“(クリスチアン・フェリクス）ヴイセに与える書”を添付した．かれの悲劇“ウゴリノ”(1768）ではシェークスピアの精神で作詩しようとした．ゲルステンベルクはギリシャ語からの模倣作品も2，3ある．―― (4)　註(2）にある“スカルデの詩”(1766）をいう。

Frey. 詩なんてものがこの世に無いといいんだがね．われわれは周囲の足場にばかりほねをおつて，建物を忘れるのだ．小供時代には，どれほどの時間が神話誌を学ぶことに使用され消費されることか．われわれは被いばかり見て中核を見出すことを学ばず，詩ばかりみて真理を発見することを学ばないのだ．詩のためにわれわれは悪習にそまつてしまい，ついには最も神聖な建物を弄ぶようになる．われわれはつねに被い，衣裳を欲する．美しい姿であらわれないものは，また真理でもないのだ．それは忘れられ，軽べつされる．独自の詩的精神すら因襲的な神話誌に屈服してしまう，それよりはむしろ，純粋な真理を求めるこころがそうだ．これをひとは，詩においては，いつもながら古代の擬人化という影の国に追放してしまうのだ．

A. われわれが異つた組織をもつているのなら，きみのいうところに何ら反対はない，だがさて，われわれは，現在あるところのもの，すなわち人間だ．われわれの理性は仮構によつてのみ形成される．いつもながらわれわれは多のうちに1を探究し創造し，これを形成して1の形態にする．そこから概念，理念，理想が生ずる．われわれがそれらを不正に用いるなら，あるいはさらにまちがつた構成をする習慣がついているとするなら，影の像に驚嘆したり，誤つた偶像を聖物として担つて，駄獣のようにほねをおつているというのなら，罪はわれわれの側にあつて事物の側にはない．詩なしにはわれわれはたしかに存在し得ないのだ．子供は空想にふけり，他の状境や人物にさえなつたつもりのときがいちばん幸福なのだ．一生涯われわれはこのような子供でいる．悟性によつて支持され，理性によつて秩序づけられる魂の仮構にのみ，われわれの存在の幸福はある．Frey，この無邪気な喜びをわれわれに許しなさい．法律学や政治学の仮定がそれほど愉快なことは稀なのだ．

F. それならどんどん詩をつくつたらいいだろう，Alfred.

A. 1つの民族にとって，その言語のなかに生じた神話誌をもつことが愉快で，好都合で，有益でないかどうかをわたしはきみにきいたね．わたしは諸民族の歴史がそれに関して教示するところがあると思う．たとえば，何がギリシャ人に美術，学問，文学におけるかれらの形像の美しい統一を与えたのか．

あらゆる地方差，時間差にもかかわらず，かれらのすべての作品にはある種の偉大な趣味の原則が確立しているのは何に由来するのか．なによりもまず，かれらが他の諸国民から取ってきたものすべてを自己のものにしてしまったことに由来するのだ．かれらは独力で独創的なものにしてしまった，かれらはその考え方や言語のなかで，それを独特の形体にしたててしまった．ローマ人はこれに反して，それ自身の頑固な神話誌をもっていた．かれらはその神話誌で，ギリシャの文学や形像をなるほどしばしば異国の玩具として用いたけれども，しかし他方独自の詩，哲学，美術にはけつして到達しなかった．かれらの仮構は尚武的で法制的だった．かれらにはギリシャの詩神が生来のものとなり同化することは稀であった．

暗黒の数世紀後，ヨーロッパに自由な科学精神がふたたび目覚めた時代を1度通過してみたまえ，あらゆる国民の詩人や賢人は，かれらの母国語で構想したとき最も幸福だったことがわかろう．Dante, Petrarca, Ariost は古代人の間で教育された．Ariost はみずからほとんど古典的なラテン語[(5)]をかいた，そしてPetrarca はイタリーの詩神の手からでなく，かれのラテン語の詩神の手から不滅の月桂冠[(6)]を予期していた．それにもかかわらず，時代はかれを否定した．これらの詩人の価値を後世にもたらした理念や文学は国民の考え方からとられ，かれらの母国語に同化していた．イギリス人のばあいも異っていなかった．思い出してみたまえ，Spenser[(7)] と Shakespeare とが古代人の神話誌の間でどんなにほねをおって身をもがいているか，ところでかれらが，特に Shakespeare が，その民族の伝説から，迷信から概念をつくり，形態を作るとき，どれほど

(5) Lodovico Ariosto (1474—1533), "荒れ狂うローラント" の著者，かれは18才から22才まではほとんど法学研究にのみ従事したが，それから文学を研究した後に，まずラテン語の詩によって広く有名になった．—— (6) Francesco Petrarca (1304—74) は，1341年の復活祭の日に桂冠詩人となった当時には，ほとんどイタリー語の詩によってのみ知られていたけれど，あこがれ望んだこの栄誉は，やはり現実には，ヴィルギリウスの様式で書いたラテン語の叙事詩 "Africa" によってはじめて獲得したものと思った．そして概してかれは非常に多くのラテン語の書物をかいた，特に重要な歴史の著作，"De vitis virorum illustrium (卓越した人々の生活から)" がある．—— (7) Edmund Spenser (1553年頃生まる) は，古代人の神話誌を，かれが自己の結婚の祝いに際してつくった結婚式の祝歌 "Epithalamium." のなかに適用した．

容易にまた幸福に思考し創作していることか．きみは Milton の古典的な思考方法とその美しいラテン語の詩句[8]とを知っている．ところで，かれの両楽園の，かれのクリスマス前夜の頌歌[8]の，かれの allegro と penseroso[9] との最も力づよい，最良の箇所は純粋にゴシック[10]なのだ．

F．そこできみはわたしに不幸な夢を送ってくれるのだね，Alfred. われわれの職人歌人たち，かれらはなんとみじめに古代人の歴史と神話誌につきまとわれ，煩わされたことだろう．そしてわが学者の Opitz[11] が詩をつくり韻を踏んだとき，かれは飜訳者というべきだったのか，あるいは詩人というべきだったのか．Shakespeare に対するとき，わが Andreas Gryphius[12] 等々はいったい何だ．

A．だがしかし，ドイツ語にはすでに優れた物語や格言・箴言の類があったよ．ただそれらは言葉のなかに空想がないままに存在したのだ．この言葉には独自の神話誌が欠け，順次に形成されてゆく英雄伝説が欠け，この言葉の，元来はすこぶる包含するところの大きい・充実した・美しい・諸基本理念の詩的な叙述や育成が欠けていた．この言葉がかつて所有していたこの富を，どれほど低劣に私消したか，それをきみが確信したいなら，Scherz, Wachter, Frisch, Haltaus, Adelung,[13] どれでもきみの好きなドイツ語の辞書をわたしと一緒に通覧して，われわれの最も好きな基本語の使用法を追及してみたまえ．この言葉が如何に奴隷的になったか，たとえば教会式というのではなくて，もっとずっとひどい法律式が，そして何よりもいちばんひどい宮廷式が支配力を

(8) かれが17才のときつくった幾つかの詩，および "Epistolae familiares (親しい書翰)" のなかで．クリスマス讃歌 "Hymne on the nativity" をミルトンは，1525年から1532年までケンブリッジで学んでいた間につくった．—— (9) 世界と人生とは，楽しいものには如何にうつり，悲しめるものには如何にうつるかを描写している2つの詩．—— (10) すなわち，ゲルマン的＝キリスト教的．—— (11) Martin Opitz (1597—1639) は率直に外国文学の模倣を推称し，これによってまたヨリ優れた国民作品に到達するのだといった．—— (12) Andreas Gryphius (1616—64) は17世紀の最も重要なドイツ劇作家で，かれの "Peter Squenz" ではシェークスピアの "真夏の夜の夢" を模倣した．—— (13) ここに挙げられた人々は主として17世紀末から18世紀にかけての学者で，ハルタウスとグラファイはドイツの法学者，シェルツ以下4名は同じく言語学者である．

獲得してしまって，この言葉の最も美しい伝統を，その源泉に至るまで滅ぼしてしまったありさまをみて，きみはびつくりするだろう．特権と威儀とがわれわれの言葉を支配している．一切はそれに基礎づけられ，一切はそれに指向せられる．最も優雅・高貴な言葉が，はなはだしく形式的なもの，あるいは，ばかげて下劣なものにさえ変えられているので，最も力のある種子がこんな藪の中に，萎縮し人工を加えられて撒きちらされるのを見ると，恥かしくなる．この目的で，わが法廷風にまた宮廷風になつた言語の紋章飾りに堂々たる考証を加えるために，1度 Haltaus から Glafey[13] を通覧するだけのほねおりをしようじやないか．

F．それはかんべん願いたいね，わたしは毎日この文体で訓練させられているんだから．

A．それではわれわれの言葉の美しい基本語をギリシャ語と比べて，両者がどうなつたか見てみたまえ．きみは Schiller の“ギリシャの神神”という詩を読んだことがあるか．

F．加うるに，それについて言われている[14]多くのこともね．

A．ひとが“神神”という語をこの詩人が考えているようにとつたとしたら，多くのこと言わずに済んだろうに．詩人にとつては，それは詩的な，神話的な神神，擬人化，理念，理想なのだ．この詩を読んでいつて，ドイツ語とギリシャ語とを比べてみまえ．われわれの美しい曙光からは Aurora や Eos は生まれなかつた．われわれの愛らしい宵の明星からは Hesperus が，われわれの山彦からは Echo が，われわれの甘い声で鳴く鶯からは Philomele がけつして生まれなかつた．われわれの樹や花の，牧場や河の美しい名前，われわれの月や太陽は，Apollo と Daphne についての，Apollo と Hyacinthus についての，Luna と Diana とその Nymphe たち Dryade たちについてのギリシャ人の物語のような噺は生まなかつた．われわれの老いた母である大地

(14) シュトルベルク伯・フリードリヒ・レーオポルト，ルートヴィヒ・フォン・クネーベル，ヨーハン・ヤーコプ・シュトルツらは，シラーの——宗教的に考えられた——多神論にたいして疑念を抱く諸論文を書いた．

(Hertha) は死んでしまっている．山と牧場の上にいる Elfe たちは妖魔になってしまっている．[15] そして魔女や山霊について，地下の侏儒，水の精，夢魔，森林に跳梁する魔軍，風雨のよる狩する魔王，等々について庶民伝承に保たれてきたものは，あまりにも粗野，粗暴な迷信に退化しているので，いくら真剣にこれの除去に努めても足りなかったろう．——

F．さて，それで？

A．それでとは？ このことに関して，隣民族の，またドイツ種族の神話誌から，いわばわれわれの言葉のために生まれ，われわれの言葉にまったく結びつき，われわれの言葉にない発達した仮構というものの欠乏を補ってくれる事物が招来されるなら，これを排斥するものがあろうか．むしろそれを，長年の旱魃と饑饉の後に親切な魔女が贈ってくれた魔法の庭とみなそうとしないものがあろうか．われわれは，最高神を萬民の父として，Freia を愛の女神として，Löbna を夫婦和合の保護神として，Saga を歴史の女神として，Wara を誓約，とくに愛の宣誓の監視者として承認しようとしない理由があろうか，それらの名が明白に美しくその本体を言いあらわしているのに．ほかの名はすこぶる佳い響をもっているし，その名のあらわす人物についての物語は，われわれの考え方や言葉にすこぶる適合しているので，どうして Thor が雷鳴を，Braga が詩神を，Iduna が不死と若返りの女神を，Lyna が危険からの救助者を，Nossa が卓越を意味しているのか，われわれはじつにすみやかに学ぶだろう．ひとはこれらの，ふたたび帰ってきた祖父たち祖母たち，われわれの言葉の祖先たちに，よろこんで椅子をすすめ，家中の最も栄誉ある場所を明けわたさないだろうか，たとえこの家が最もよく管理された宮殿であるばあいでも．

F．それに関係ある書物をくれたまえ．読んでみよう．

第 2 の談話

F．読んだよ，そして Edda の始めのところですぐに心に銘じたのは，

(15) キリスト教の影響によって．

Gangler（好奇心のある旅人には良い名だね）が，金色の屋根に覆われた神神の宮殿に招じ入れられたときに言つた1語だ．“入つて行く前に，まず，ふたたび出て行けるあらゆる戸口を捜しておかねばならぬ．”これはね，Alfred，この神話誌のばあいにも有益なことだと思われるのだ．

というのは，まず，いいかい，いつたいこの北方神話誌のすべての名は，いまでもわれわれの言葉のなかに生きているほどドイツ的なのかね．Odin，Aeger，Balder，Forsete，Häner と Hoder，Locke，Tyr，Uller それに Widar なんて名を知つているものがあるか．女神たちや処女たち，Eyra，Fülla，Gna と Gefiona，Syena，Siphia，Skada それに Snotra なんて名を．Walküre たち，Norne たち，森の処女に海の処女，妖魔，侏儒，巨人，等々の事業や種類や名前を知つているものがあるか．そこでわれわれにもう1度神話誌を学べというのかね．またまた Natalis Comes，Pomey それに Damm[16] のような書物を書くか，あるいは Hesiodus，Kallimachus，Apollodor[17] のような註釈をかけというのかね．こういうばあいわたしには，当時わが国の詩人がよく使つた Telyn[18] という語の意味を聞かれたときの例の賢人の答が好ましいね．“それは，”とかれはいつた，“近ごろ詩句の飾り，あるいは埋草に用いられるが，その意味はそれほど正確に知ることのできぬ言葉なのだ．”——北方の詩の読者のばあいには，説明的な，極度に煩わしい註釈がなければ，長い間こういつた状態にあるのではないかをおそれるのだ．ギリシャ神話誌はアルファベットのようにして学校で習う，詩人や絵かきが絶えずわれわれにそれを想い出させ，しつかりと記憶のなかに留めてしまう．だが，北方の詩にあらわれる名前をわれわれはどこで習うのか，何によつて後世に残

(16) Natale Conti (Natalis Comes) (1582死す)，“Mythologiae” 10巻あり，——Franciscus Pomey, “Pantheum mythicum” (1659) あり．——Tobias Damm の “Novum Lexicon Graecum” (1765刊) についてヘルダーは，主としてホメーロスとピンダルに基いているこの著作には，ギリシャの最も美しい文学時代の神話誌が見られ，神話学についての後生の詭弁が混っていないと賞讃している．—— (17) Hesiodus (紀元前760頃) はギリシャ “神統記” の著者ということになっている．Kallimachus (紀元前250頃) は，神話誌的学識に充ちた詩を書いた．アテネ生まれの Apollodor (紀元前140頃) には神話誌の “文庫” がある．—— (18) クロップシュトックはこの語を古代ゲルマン人の軍歌詩人の7弦琴の意味に用いた．

すのかね.

A. それには道は容易だろう. この神話誌が注目に価するなら, ギリシャの神話誌とひとしく学んだらよかろう, あるいはむしろ, 文学者が理解し易いように, 快適に, また慎重に紹介したらよかろう. もし北方文学の部門をもまた単にヨーロッパ民族史の1部, 人間知識の1分科とみなすなら, この研究の1系列の促進者たち, Verelius, Magnäus および Torfäus から Thorkelin および Suhm[19] に至るまでの人人がそれに致したところの巨大な, 博学な, そして豁達な努力は, なんといつても注目に価しよう. それにこの神話誌にはじつさいに美しい詩篇が含まれているのだから, 後者を読もうと思うものは前者を識らなければならない. 今日では Gräter[20] がそれを周知させるために言うに言われぬ, 現在まで報いられぬほねおりをしている. かれが1つの小さな北方神話誌を銅版画でかくとしたら, それは美術の冒涜だろうか.

F. 銅版画で!

A. どうしていけないのかね? いや, わたしはあえてもつといわせてもらう. ギリシャ人の後にわが全地球上でこれより以上に美術にたいして資格があり, 美術にふさわしい神話誌や歴史をわたしは知らない. ゲール[21]のもの, ユダヤのもの, シナのもの, インドのもの, (ギリシャ人から分離したばあいの) ローマ固有のものは, 豊富さ, 品位, および美術への資格においてこの神話誌に及ばないのだ. この観点から両 Edda[22] と, それにほんの2, 3の伝説を通読してみたまえ, きみは絵画的な場面の豊富さに1驚するだろう. 大胆に且つ柔和に, 頑固に且つ温和に, 陸に水に, 男女の神神や英雄たちの冒険がここに出現

(19) Olaf Verelius (1618—82). 北方古代の研究家, スエデンのウプサラの教授. Arni Magnus (Arni Magnäus, 1663—1730), Thormodr Torfason (Torfaeus) Grimr Jonsson Thorkelin (1752—1829) は各々アイスランド人の北方古代研究家. Peter Friedrich Suhm (1728—98) はデンマークの歴史家. —— (20) Friedrich David Gräter (1768—1830) は古代エッダの飜訳者, 古代ドイツの研究者. —— (21) すなわち, ケルトの. —— (22) 古代北方文学の2大蒐集. 古いほうは "歌謡エッダ" また "賢者ゼムントのエッダ" とよばれ, 北方の神と英雄の伝説からの古代歌謡を含み, ヨリ新しいほうは, "スノリ・ストゥルルゾンのエッダ" ともよばれ, 2部に分たれた同種の散文神話物語, "Skaldskaparmal" のほかにスカルデ詩学に関する法則を含んでいる.

する．それは Michel-Angelo, Raphael, Correggio, それに Titian のような人人，Guido[23] や Domenichino[24] のような人人の興味をひくに足るだろう；神神の町や巨人の国，岸べや山や谷にはそれほど多くの変化がある．ここでは霊妙なものが偉大なもの愛すべきものと混りあつているので，（ギリシャ人もしたように）粗野なもの怪奇なものをとり除くと，魔術すら目を驚かすような諸心象をひき起す．思い出してみたまえ，Frey. Shakespeare の最も独創的な，最も魅力のある，驚嘆すべき作品，"Hamlet" は，正しくこの北方の説話から生まれたのではないか．"Tempest", "Lear王", "Macbeth" のなかの最も絵面的な場面はこれらの説語に境を接してはいないか[25]．そしてなお，それらのなかには，如何に多くの同様な作品にたいする素材が含まれていることだろう．——わたしが北方の王様なら，イギリス人が Shakespeare や Milton の美術陳列館をもつているように，わが諸民族の古代史の陳列美術を描かせ，わが美術家たちにたいしては，あまりにも頻繁にくりかえされるローマ人の物語を禁ずるだろうに．世界は広大だ．Muse は7弦琴をもつて，また画筆をもつて，あちこちをさまよい歩かなければならぬ．

F．萬事諒承した．だがわれわれドイツ人にとつて，如何なる理由で，また如何なる由来から，これらの場面が国内産だというのだね．説話の1部はおそろしく北極的だ．

たとえばわたしが "世界と創造"[26] を読むとする，"冥府の諸川はその源泉から遠ざかつた．それらを回転しつづけていた憤怒は凍つた．それらの上には霧が凍つた．それらの下には旋風が荒れ狂つた．南方から閃光と電光が飛散つた．萬物の中央にはおそるべき氷の如き風が吹いた．——そのとき温める呼気が氷の霧の上に拡がり，これを融かした．この滴から最初の人間が生まれた．"——これを読むと，ぞっとして寒けをもよおすよ．

---

(23) Guido Reni (1575—1642), イタリーの画家．—— (24) Domenichino (Domenico Zampieri, 1581—1641), イタリーの画家兼建築家．—— (25) ヘルダーは特に激昂した性質をかいた諸人物のうちに類似を見出している（"リヤ王"），また幽霊その他お伽噺的な架空事にこれを見出している（1方においては "ハムレット" と "マクベス"，他方においては "テンペスト"）．—— (26) "エッダ" の中にある．

"最初の人間は巨人であつた．かれは眠るときに汗をかいた．かれの右手の下に1人の男が生まれ，左手の下に1人の女が生まれた．かれの足の1つも他の1つと共に生んだ．かくて寒冷の巨人の種族ができた．" どうも優しい起源じゃないね．

A．寒冷の巨人としてはじゆうぶん優しいじゃないか．

F．"昼の呼気が氷の霧を融かすやいなや，それから4つの乳房をもつた牝牛が形づくられた．牝牛は最初の巨人を養い，自分の食物には塩と白霜で被われた石を舐めた．それが舐めたとき，最初の日に人間の髪が出，第2日に頭が，第3日には1人の人間，Bureが出現した．かれの息子は Bore とよばれた．"

"Boreの息子たちは巨人を殺した．すべての寒冷の巨人たちはその血潮のなかに溺死した．息子たちはうち殺した巨人の屍体を深淵にひきずつて行き，屍体から大地をつくつた．湖川と海とがその血のなかから生じ，山山はその骨から，かれの歯牙からは石が，頭蓋からは天が，脳髄からは悲しげな雲が生じた．" これがわれわれの願つているような世界の光景だろうか．

"Boreの息子たちは小川のところへ赴いた．とねりことはんのきの2つの木片がその上に浮んでいた．かれらはそれから Aske と Emla という男女を造つた．" 人情のない両性の起源じゃないか．

A．Frey，わたしはきみの労力を軽減して，この奇異なもの，われわれから遠いものの，きみが行つたよりもいつそう著しい特徴づけをやろうと思う．この北方の寓話伝説の大部分は，Jotunheim，すなわち巨人の国に属するもので，この国は幸いなことにわれわれの風土とは異つている．冷い，凍つているか露が降るかしている国，氷の森や怪物や男女の巨人に満ちた国で，われわれからはるかに遠隔の地にあるのだ．

わたしはきみのために北方寓話のなおいつそう遠隔な地域の特徴をあげてみよう．それはたんに北で演ぜられるばかりではないのだ．世界の燃える南側では Surtur 漆黒王[27]がその炎の剣をもつて支配している．天の橋のところでは

(27) Surtur は北方神話誌によれば火の国 Muspelheim の支配者であった．

Heimdall がかれを見張つている．日の終に，王は火の国 Muspelheim の人人を引連れ，橋を馬上で馳け上り，Odin の宮殿を占領するだろう．そこで一切は崩壊し，新しい世界が現われ出る．

最後にだね，Frey，北方寓話の真の中心地は Odin の町，かれの種族の居所，Asgard なのだ．それは大地の中心，Midgard にある．そこにはかつて神族 Ase たちが住んでいた．そこでは勇敢なものはたれでもその死後神族と共に住む．北方ではかれらはたんに新参者，異国のものに過ぎなかつた．きみは Ase たちの集合する Ida 山について読んだことがあるね．それでこの山がどこにあろうと，それは北方の山ではないのだ．エッダの胎芽はあらゆる神話誌と寓話との祖国，アジアから来ている．

F．それはわたしも気づいていた，そして説明してもらいたいと思つていた．

A．Odin の特徴とその Asgard とについて書かれているかぎりでは，わたしはきみにこの説明を簡単に与えることはできない．明らかにこの神話誌は1つの場所，1つの時代に発生したものではない．広大な諸地帯，長い数世紀がそれにあずかつている．そしてわたしは，コペンハーゲンの科学協会によつて，次のような懸賞問題が課せられるなら結構だと思うのだ；すなわち，この神話誌が，その主要観念と伝説とにおいて，何処で，何時，如何にして発生したかを，内面外面の根拠から探究すること，だ，同時に，この問題の解答は，いままでに採られた国民的な・あるいは一般に通用している世間受けのする・臆説を一切考慮しないで研究されなければならぬ，という規約をつける．——

だが，これら一切のことは，われわれの問題には何のためになろう．北方神話がフリジャの Ida に発生したものだろうと，あるいは黒海沿岸で，コーカサスで，乃至北極の下で発生したものだろうと，それは，真正な，純粋なドイツの基本言語を保存して来たのだ，そしてこの故に，われわれはそれの幾らかをわがものにしようとするのだ．チュートン系の諸民族は広くあちこちを駈け廻つてきた，アフリカへすら紛れ込んだのだ．[28] われわれに役立つものは，それを

(28) ヴンダル族のこと．

発見するところで，われわれはこれをとるのだ．

F．よろしい．そこでわたしが正に知りたいのは，このわれわれのための貯蔵が何だということだ．腹蔵なく言ってくれ，Alfred.

自然詩が，事物の発生とその相互の関係とを，心地よい，教えに富んだ衣装を着せて，いわば面を覆った花嫁のようにして，紹介してくれるのなら，われわれはこれを愛する．だが言ってみてくれ，自然の知識としてみたとき，この寓話のなかで何が心地よく教えに富むものなのだ．巨人 Ymer の屍体からの世界の創造，とねりことはんのきという2種の木片からの人間の創造，炎をあげて燃え，しかも確乎としている橋というものからする虹の空想，昼と夜と，太陽と月とを，掠奪された2人の子供としてみる観念，昼と夜とが走る際，これを爽快ならしめるため，両者の乗る馬に空気をつめて与えられている革袋——これによって朝夕の寒冷を説明すること，ついには，太陽と月とを呑込む Fenris[29] によるこの世の終り——まことに，これは諸年代から生れてきた一種の物理学だね，これをわれわれはたとえ詩のなかへでも，ふたたびもちこんではならない．

それとも，Alfred，きみはこれらの英雄の風俗がわれわれのためになると思っているのか．巨人の国では事は粗暴に行われる．Odin の宮殿ではひとびとは斗い，遊び，食い，飲む．これら英雄たちの機智は洗煉されていない．かれらの動作も垢抜けがしていない．暴力が決着をつける．世界は強者に与えられる．かれはうち殺し，強奪し，誘拐する．——きみはこれらの風俗を賞讃し，この鉄拳の諸原則を再来させようというのか．今日まで全ヨーロッパを荒廃させてきたし，また，もっと上品な仮面をかぶって，いまなお荒廃させつつある原則を．放埒な英雄生活，そこでは誰かが拳に剣を握り，一切を強奪によって保持する，これをきみは賞讃しようというのか，Alfred.

それとも，けつきよく，きみはこの詩・伝説の形式をわれわれに推挙しようとするのか．Worm[30] が数えあげた抒情詩の 136 韻律のうちで，どれがきみに

(29) 悪魔，狼．神々の黄昏には，神々はこれと戦わなければならぬ．——(30) Ole Worm (1588—1654) がその "Runir seu Danica Literatura antiquissima (ルーネ文字，あるいは最古のデンマーク文学)"，のなかで．

最も好もしいのか，この詩・伝説がすこぶる多大の技巧をそそいだ頭字の[31]，どの位置と調和がきみに最も好もしいのか．

あるいはきみは，A (aar) という文字が穀物を，F (ee) という文字が金を意味するから，両者が1緒になると争いの原因となる天の恵みを表示する[32]という，あの比喩的な謎の智慧をわれわれにおしつけようとするのかね．剣，船，戦斗，血，狼，禿鷹，といったものが，千差萬別に飾り立てられ，書変えられているので，言葉が広範囲に亘り，当の場所における形象の力が失われてしまう[33]，あのとほうもない書変えを，きみは賞讃しようというのかね．Alfred，きみの趣味をだいなしにしないでくれ．われわれはあの時代，あのような歌の技巧は超えてしまつているのだ．昔の Skald-Spiller[34] のところへ弟子入りするのはよそうよ．

A．きみは Iduna の説話を読んだかね，Frey．

F．それは最善のものの1つだ．“文芸の神 Braga には，神神が不死のりんごをあずけた妻がある．神神が老いると，かれらはそれを味わつて若返る．”だが，わたしは，これらの神がまつたく死んでしまつていて，もはやけつして若返らないのではないかを恐れるものだ．北方の曙光は，ひとを温めることなしに照らすのだ．

A．きみはもう1度だけ談話をやる気があるかね．

第 3 の 談 話

A．Iduna のりんごが今日はわれわれの合言葉だ．だから，われわれがこの神話誌からも，またほかの神話誌からも，粗野な概念を，それが自然に関したものであれ，道義に関したものであれ，粗野なままで採り上げてはならぬ，

(31) ヘルダーはエッダ歌謡の頭韻形式のことを言っている．(32) 争いの原因となる天の恵みという言葉では，おそらく，“遺産”——北方語における “Arfi”——を理解すべきだろう．Arfi とはもちろん，ただ外見だけ “Aar” と “Fee” とからの結合にすぎない．—— (33) たとえば狼は “貪慾に口を開けて屋敷の廻りを歩く犬” といわれた．後の “エッダ” では，第2部は元来このような詩的な書変えを集めたものである．“歌謡エッダ” においても，たとえば換喩（白髪＝老年，の類）——もちろん比較的単純なものだが——における問答体の遊戯 “Allvissmal” がある．—— (34) “Hakonarmal” という有名な “エッダ” 歌謡の詩人．完全な名は Eyvind Skaldaspillr．すなわちスカルデの滅亡者．

ということについては，1言も費さない．ギリシャ人もその巨人 Titan と同じく Gigant との両説話をもつていた．その最も古いものはすこぶる粗野な天地創成説であつた．しかしかれらは前者を適当にあんばいし，後者からはよりよい・ついには最も優美なものとなつた・思弁を喚起することができた．Ymer の骨から，Midgard を建設した Bure の息子たちから，太古の泉の上にある世界樹のとねりこから，その枝の下にいる3人の処女たち，過去，現在，未来から，この太古の泉にふさわしい詩がつくられるかもしれないと，きみは思わないか．天の神聖な青空に座して世界を警護し，その滅亡に先鞭をつける[35]美しい神 Heimdall の歌を，きみはきいたか．きみは，そのなかで最高神の眼が輝いている[36]智慧の泉から汲んだことがあるか．そして北方の守護の女神たち[37]が地上で行うことすべてにおいて，その洗煉された教養を認めなかつたか．きみは，善良な Balder の早死[38]の話を聞いたか，そしてどんな悲しみがそれから生じたかを．そうだ，善と悪との間，天と Hela[39] との間の事物の全連関を，最後には事物の終末を，若返つた世界，たのしい朝の続くあのおそろしい黄昏を，きみは聞いたろうか．そのなかからは，Iduna のりんごが触れるやいなや不死となるところの詩が汲みとられないだろうか．

F．それを見せてくれ．

A．きみのためにそれをしない．——だが詩がすべてではないのだ．Frey，きみはこれらの人人の風俗に反対することも言つたね．きみはかれらのところで，われわれの流儀に従つて風俗を探すのか．だらしのないことを見出すために英雄と太古の国に旅する必要があるだろうか．男の智慧は確乎たる勇気，常

---

(35) ハイムダルが，世界を担うとねりこの樹イグドラジルの下にいつも隠されているかれの号角を吹くならば，それは，神々と巨人たちの間の殲滅戦，神々の黄昏の開始を告知することになる．—— (36) 日没，あるいはそれの海への反映を基にしている北方伝説によれば，オディンは毎日賢い水の巨人ミミルのところへ行き，智慧をうけとるために自分の眼をミミルに抵当に入れる．智慧は，世界の樹とねりこの木影にあるミミルの泉が，その神秘な深みにこれを隠している．—— (37) ヘルダーはおそらくヴルキューレのことを考えている．—— (38) Balder (Baldr, Baldur) は光神，オディンの息子．勇敢で優しく美しい，神々は萬物にかれを傷づけないように誓わせたが，寄生木（やどりぎ）だけを見逃したため，ついにそれの枝にさされて死ぬことになる．—— (39) 北方伝説の下界ニフルハイムを支配する女．

識，沈着，そして力の役にたたぬ緊急時には敵の目をくらます魔術なのだ．物語を通読したまえ，そしてきみが，これらの青年や男たちのばあいよりも，もつと誠実な，もつと鋭敏な鉄石の魂を，どこかほかで見ることができるというなら，わたしはきみに反対する．死に至るまでの友との友情，生と死とにおける勇気と好機嫌，その言を守る誠実，女性にたいする純潔や尊敬，それに優しい親切，抑圧された人人にたいする慈悲ある心根，これが，地上のあらゆる種族からこの民族を区別するものであつた．われわれドイツ人はこれに属するのだ．われわれの祖先から輝き出た美徳が，もはやわれわれの上に全く力をもたぬというのか．われわれはゲール人[40]と混同されている．ひとはわれわれにひとりの Ossian を要求する．この2つの民族ほど異つたものはなかつた．それ故，これらはまたつねに対立してきた．ゲール人は柔弱な，悲しい感情をうたつた．ノルマン人は行為をうたつた．かくてノルマン人は他の諸民族にしばしばめんどうをかけ，怒つたさいには，その剣を誇つたかもしれないが——抑圧的だつたことはけつしてなかつた．最古の北方人[41]は，卑怯で奢侈な奴隷関係に征服されていた世界の解放者であつた．後代のノルマン人[42]の抑圧的な封建制は，時代と教会との習慣によつて形成された困苦からの妥協であつた．しかもこの時期をも，この民族ほどロマンティッシュに輝かしく終えたものはほかにはなかつた．テーベやトロヤ以前の英雄たちは，ノルマンディー，シシリー，ナポリ，およびエルサレムにおける英雄たち[43]に比べて何だろう．豪勇と典雅とにおいて，かれらはあらゆる民族の騎士精神の華であつた．きみは古代および後代の北方伝説においてそれの証拠を見ようと思うかね．

F．それを見せてくれ．

---

(40) すなわちウェールスにいるゲール人（ケルト人）の住民たちとの混同．神話の歌手オシアンはその民族に属していた．—— (41) 紀元前113年以来12年間，ローマ帝国をおびやかしたチンバー人およびチュートン人．—— (42) 第9世紀にノルマン人は，最長子にだけ父の財産を譲る相続法により，また強力な王国の完成により国外に逐われた，すなわち，この相続法とこの王国とに農民たちのように直ちに屈服しなかった貴族が，好んでノルマンの海賊航海に出かけたことなど．—— (43) ヘルダーは“人類歴史哲学の諸理念”第18巻で，これらについて歴史的な叙述を行っている．

A. じぶんでみつけたまえ.——Frey, またさらにきみは, 女たちの習慣に反対したことを言つたね. きみのギリシャ女やローマ女たちと一緒に歩きたまえ, そしてわたしには北方の歌や伝説にあらわれているようなドイツ女の理想を残して置いてくれ. ものわかりよく, 道徳的で純潔なこと, 好んで働き, 指導的で予言知があること, その夫とその子供たちとにたいする母の生活, それはここにも至るところで認められる. 伝説の性格に従えば, ドイツの女は, なるほど女性中で最も教養あるものとは言えないかもしれないが, 最も尊敬すべく最も高貴なものだ. この種の特徴が失われてしまつたというのかね. 甘やかされた曽孫の娘たちは, 宗祖母の姿を見ようとせず, その前に顔をあからめていると主張するのかね. ここにはほとんど恋愛の歌はないが, しかし深い愛の容はある.

F. それを見せてくれ.

A. じぶんで見つけたまえ.——きみはさらに, これらの民族の粗野な機智について語つたね. わたしの言を信じたまえ; これらの歌や伝説のなかには, 達者な卓越した解答もあれば, 大胆な決断もある, 活潑な嘲笑の語もあれば, 不敵な行為もある. ただ一切は, かれらの歩みのように, かれらの詩句の響のように, 直截なのだ.

きみはこれらの詩句を嘲つて文字選びと名づけたね. 響の整理者と言つてもらいたかつたよ. というのは, 本来かれらは母音を互いに整頓したので, 子音はその先行あるいは随員たるものであつたのだ. 多くのわが詩作家諸君が, 語の各系列中に, どんな母音がたがいに相殺しているか, それらはどんなふうに交替しているか, それらはみずからを, あるいはまた語の頭韻を, 不愉快にくりかえしているかどうか, などに気をつけるなら, すこぶる結構だと思うよ. かれらは, そのために, あらかじめあの古い・その後全く変化してしまつた・古代言語に訊ねる必要はないので, それについてはただじぶんの耳に訊ねればよいのだ.

最後にきみは, 古代の詩人がしばしば称えねばならなかつた詩的な異名, 事物の芸術的な書変えの目録について嘲つたね. わたしはこれについては, 多く

の言いたいことがある．というのは，この言語装置は，正にこの民族文化の本来の祖国[44]を指示しているからだ．すくなくともそれは，後世ついに手職となったところの・詩歌の・古代技術を説明している．というのは，われわれはだれからこの名称の目録を手に入れたのだろうか，つぎはぎ細工をするものたち[44]からだ．そしてそれを手に入れたことを，われわれはかれらに感謝したいと思う．詩人がしばしばやらねばならない多くの，あまりにも技巧的な事物の書変えをみるに当つては，Pindar を想い出したまえ．かれほど目まぐるしく，技巧的に，勝利や歌，場所や戦斗を書変えるものはあるまい．またなんとかれの形象は絡みあい交りあうことだ．——

われわれは趣味を北方人から学んではならないよ，Frey．これは時や習慣とともに，民族の住む場所と風土によってすら変化するのだ．だが，悟性，習慣，言語の使用，詩などのなかにある国民の精神には，われわれも感染したいものだ．ここには構想や詩が至るところにあるからだ．Edda を観察してみたまえ．それは，Hesiodus の神系譜のように，たんに寓話の蒐集にすぎない，そして，正にそれとひとしくはなはだ混然とした蒐集なのだ．にもかかわらず，それは1全体だ，それは Hesiodus にない序と結末をもっている．[45] 第2 Edda にある最も軽妙な戯歌でも，始から終まで秩序と輪廓と行為と佳調とをもっている．ただわれわれは公平でなければならない，そして，どの1篇からも，時代に従い民族に従えばそのなかには存在し得なかったようなものを要求してはならない．われわれのためには，完全な若返りによって，模倣作が生じて来なければならない．たとえそれが現世界の対象に関係したものであろうと，未来の世界の対象に関係したものであろうと．

F．では，未来の世界のも，というのかね．

A．この世界のも，だ．この神話誌で地獄と天国とに関して与えられている形象は，近東の形象よりもわれわれの北方的感情に適合しているようにおも

---

(44) 本来の祖国とはアジア．先にも同趣旨の指摘がある．——つぎはぎ細工をするもの，については註 (33) を参照．—— (45) ここでヘルダーは時期的にヨリ若い散文エッダを第1エッダとし，古い歌謡エッダを第2のものとして考えている．

われる．Sela は巨人の女に依つて生まれた誘惑の神 Lock の不幸な娘だ．その姉妹は被造物の滅亡をおびやかす怪物だ．Hela の居所は広大な下界である．その広間は苦痛，その食卓は饑餓という．怠慢というのはその奴僕で，緩慢がその下女だ．その戸口は奈落，その玄関は倦怠，その寝台は疾病，その天幕は呪詛だ．卑怯に死んだものはかの女のところへ来る．犯罪人，不実者，偽誓者，殺人者，人妻の誘惑者，そのほか卑劣の名の下に理解されるものはたれでも；もつとおそろしい場所，屍体の岸，Nastrand がこれを待つている．それに反して，勇敢なもの，価値あるもの，忠実な夫，正直な友は，喜びや平和や友情の諸宮殿，Wingolf と Gladheim に住む．きみは気がついたかね，Frey，これら北方人がどういうわけで死後の永生をかくも固く信じていたか．かれらが勇敢な，また健全な考えをしていたからだ．ただ卑怯な心のもののみ死において亡びる．かれは解消せられ無に帰することを感じ，あるいは願う．健全な人間は永生する．非存在ということはかれには無意義だ．かれにはそれが考えられない．かの平和や友情の諸宮殿から出てくる物語は感動的で愉快なものになるだろうと思わないかね．死に至るまでの友情を盟約することは，これら勇敢な人人にとって人生の最も神聖な瞬間であつた．それ故，Wingolf での再会は，かれらにとって死後における友情の報賞でもあつた．甘美な報いだ．

なおわたしは，あの大きなとねりこの[46]樹をきみに想い起してもらわなければならない．その枝は世界の上に拡がつており，その梢は高く天上に達している．この樹には，互いにはるかに遠ざかつている3つの根が，神神のところ，巨人のところ，それに下界のそのまた下にある．中の根のところに賢明の泉，Mimer の[46]泉がある．天の根のところには神聖な源泉があり，その側で神神は評議し，その判断を表示する．つねにこの源泉からは3人の美しい処女たちが昇り出てくる．過去，現在，未来たる Urda，Verandi，Skulda がそれである．神神の会議や人間の運命と生涯を規定し，その待女たち（かれらは守護神のようにその所属する人間に姿がひとしい）によつて，人間に働きかけてこれ

(46) 世界樹イクドラジルは全宇宙を担い，それを貫いてそびえ立っている．——ミメル（ミミル）の泉については前註を参照．

を助け，また罰するのはかれらである．きみはそう思わないかね，Frey，これらの女神たち，守護神たちは，われわれにたいしても，過去と現在と未来を，いな，われわれの内心すらを，鏡にかけて見せることができると．——そして，みたまえ，上方とねりこの樹の上には，1羽の鷲がとまつて，はるか遠方をあちこちと眺めている．1匹のりすは樹を昇り降りしている．4匹の鹿がその枝枝を通り抜けてさまよい，樹の皮をかじつている．下方の蛇は，根のところ，樹の側にある腐朽物をかじつている——そして処女たちは，絶えず神聖な泉から汲み出して，枯れないように樹に水をそそいでいる．とねりこの葉からは，蜜蜂の食物，甘い露が下りる，泉の水の上には2羽の唱う白鳥が泳いでいる．この歌を，偉大な世界樹の運命についての Heimdall のうたを，この樹の下の神神の会議における過去と現在と未来の声を，きみは聞きたくないだろうか．

F．それらを聞かせてくれ．

A．Iduna のりんごが旧いものをふたたび若返らせるなら，それらもまた沈黙してはいないだろう．

F．Alfred，きみは多くのことを語り，いろいろのことを謎めいて話した．わたしに考慮する時間をくれたまえ．

第 4 の談話

F．われわれの素材に関しては，一致できるだろうと思うよ．

A．わたしもそう思う．また，正にそのためにわれわれは話したのだ．

F．しからば，きみがギリシャの神話誌を軽視し傷づけようとしないという前提で——

A．けつしてけつして，わたしはそれを世界のうちで最も文化的なものだと考えている．

F．きみが美術や文芸におけるギリシャ的趣味の原則を誤認しないことを前提として——

A．われわれがそれに感謝しなければならないものを，わたしは知つている．造形美術と芸術哲学とは，北方の空の下には，まだ土着したことがなかつた．

F. しからば，きみが野バンな北方の没趣味を，歌謡にも，そのほか言葉や作品にも，持ち込む気のないことを前提として ——

A. わたしが，どこからにせよ，粗野なものを粗野なままでもつてきて陳べるようなことを願わないのは，わたしがすでに証言したところだ.

F. そこできみに承認できるのは——

A. わたしはね，外国の・遠方の・あるいは死滅した・民族に依拠するすべての詩人や物語作者の権限にあること，——すなわちかれは，この民族とその時代とがかれに許容する富を用いうるのだということ以外には，何もわたしに承認してほしくないよ. たとえば騎士時代に依拠して物語る詩人には，騎士時代の一切の驚嘆すべきもの，一切の独特のものが奉仕する.

F. その通り.

A. 魔界に拠つて作詩するものにも同様だ——

F. かれには全魔界が従う.

A. そして近東の物語と童話を書く人には——

F. 近東の物語と童話の衣裳だ. これらすべての種類には，すこぶる卓越した見本があるから，そのことに関しては何ら疑をさしはさむ余地はない.

A. わたしは，わが北方寓話にこれ以上のものを望まない. さてそこで，これらの伝説，この考え方，この言語のなかにある理想が歩み出て，みずから活動してもらいたいものだ.

F. われわれの生活にたいして働きかける，ときみはいうのか.

A. そのことにはわたしは無頓着でいる. ただ，われわれのために Iduna のりんごを手に入れたまえ.

〔(2) 終. 全稿未完.〕